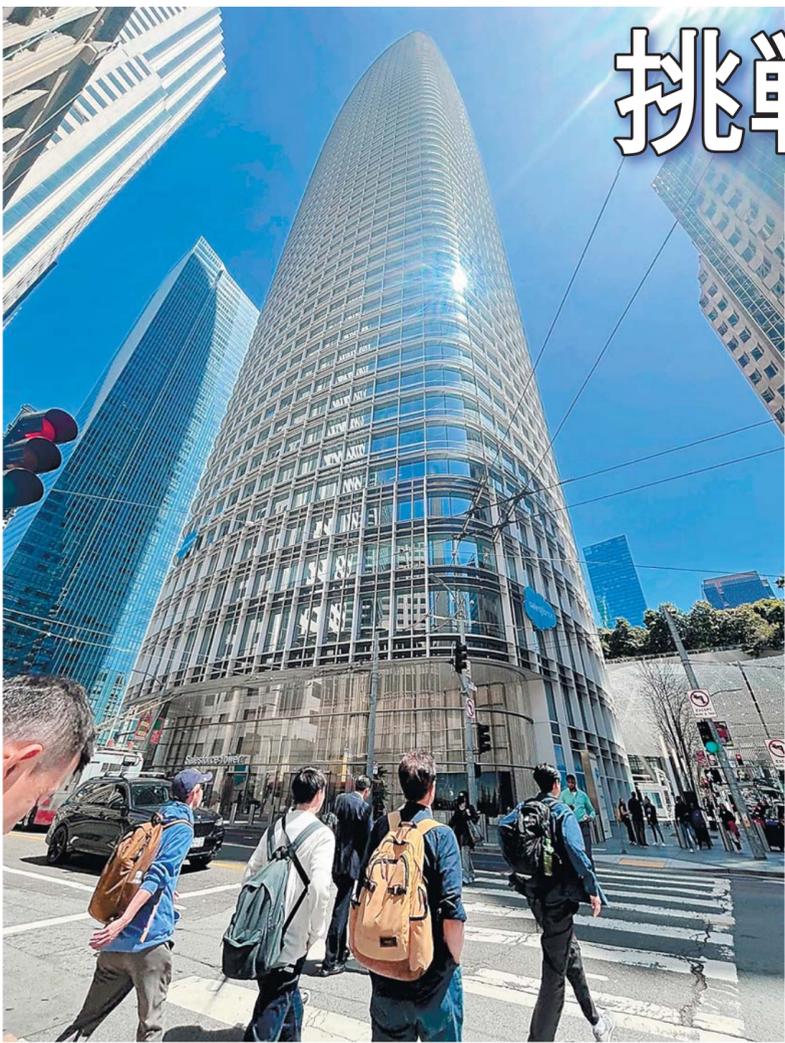


挑戦恐れぬ起業の聖地



研修会場のサンフランシスコ・ハイエリアで最も高いセールスフォースタワーに向かう一行

米国シリコンバレー研修

起業家発掘プロジェクト「群馬インベシニアワード(GIA)2024」(上毛新聞社主催、田中仁財団共催)の受賞者や関係者ら12人による米国研修が4月21~26日に行われた。世界の人材を引き寄せてスタートアップ(新興企業)が次々と誕生し、「起業家の聖地」とも呼ばれるカリフォルニア州シリコンバレー。挑戦者が集う街の空気に触れ、進化を続ける人工知能(AI)を活用したテクノロジー、生成AIを活用した新ビジネスの可能性を間近に感じた。

(角田隼也)

シリコンバレーでは毎年1万社ものスタートアップが生まれるという。この中の一握りが、企業価値10億ドル(約1500億円)以上の新興企業の代名詞「ユニコーン企業」に育ち、世界を席巻していく。

「逆に言えば、大半が失敗するんです」。日本企業の進出を支援する日本貿易振興機構(JETRO)サンフランシスコの吉田健次長が説明してくれた。失敗を経験たと前向きに捉える思考。それに、好機を逃さず挑む姿勢こそが「ユニコーン」の原動力だという。



一握りから世界席卷

一方でコロナ禍以降、AI技術を活用したECサイトなどの発達により、コストのかかる対面販売を廃止する動きが加速し、実店舗の撤退が目立つ。同市の一等地にも空き店舗が目立ち、郊外の大規模商業施設が立ち、働く場所を失い、路上生活を余儀なくされる人の増加が社会問題化しているという。

シリコンバレーの影響力は、地域の姿も変える。スタートアップが求めるITエンジニアをはじめ、世界中から優秀な人材が引き寄せられ、賃金は全米屈指の高水準を誇る。こうした企業の大卒新入社員は平均年収は1千万円を超え、近隣のファストフード店従業員の最低賃金は時給20ドル(約3千円)に及ぶ。

サンフランシスコ市内では無人の自動運転タクシーが実用化されている。検索大手のグーグルを手がけるAlphabet(アルファベット)傘下の自動運転開発企業「Waymo(ウェイモ)」が米国で展開する。専用アプリから発着点を指定すれば乗車できるという手軽さだ。

研修参加者は市中心部のホテルから、15分ほど離れた港湾エリアまでの乗車を体験した。予約からわずか数分で白色の車が到着。屋根やボンネット付近にカメラやセンサーを搭載しているが、洗練されたデザインでモダンな印象だ。

アプリで解錠して無人の車に乗り込み、どきどきしながら発車の指示を出す。ハンドルがくるくると回り出し、思いのほかスムーズに発車した。出発から程なくして、信号機はないのに車が止まった。目の前の横断歩道を歩行者が渡り、やり過すと再び静かに走り出した。人工知能(AI)が歩行者の様子を分析し、横断すると判断したらしい。急ブレーキや急発進はほぼなく、他の車の流れ

自動運転タクシー「ウェイモ」体験



サンフランシスコ市内で運行する無人の自動運転タクシー。搭載するカメラで全方向の道路状況を確認する



に沿って走り、乗り心地は快適だ。予想時刻通りに到着した。ウェイモの自動運転は、車載カメラで全方位の道路状況を把握し、GPS(全地球測位システム)の情報と合わせてAIが解析、運転操作を指示する。ドライバーが不要なため24時間稼働でき、日本でも深夜や中山間地での移動に活用できるとして注目される。国内ではトヨタ自動車とウェイモとの協業を発表し、他にも事業化に向けた実証実験が都内で進められている。

AI解析 乗り心地快適

座学、現地投資家らから学ぶ



研修ではGIA入賞者3人が、考案したビジネスプランを英語で発表した

食、環境、貧困分野 増えるテック企業

研修はウェイモの無人タクシーをはじめとする最先端の技術やサービスを生み出す空気を体感するとともに、座学や現地の投資家らと交流し学びを深めた。



シリコンバレーをけん引するのは、発達のAIやIoT(T・モノ)のインテグレーション(モノのインターネット)を駆使するテック企業だ。サンフランシスコを拠点に活動する起業家や投資家の外村仁さんは、食、環境、貧困といった分野やテーマでビジネスを展開するテック企業が増えていると解説した。

シリコンバレーで食に着目したスタートアップが10年以上前に誕生し、各国大手企業の相次ぐ参入の呼び水になったとして、「日本はその波に乗って遅れている」と懸念を示した。先端技術の活用は地方創生につながるとして「群馬から世界に誇るインベシニアワード」や「シリコンバレー」をテーマにしたAIを搭載した高性能ロボットを開発するソフトウェア会社を見学する参加者



テック企業の取り組みを解説する外村さん



シリコンバレーの現状を話す日本貿易振興機構の吉田さん

目標に世界展開 刺激

研修にはGIA2024の入賞者5人が参加し、英語でのプレゼンテーションや現地ス



田中さん



江戸さん



飯塚さん

入賞者5人、プレゼンや交流

タッフとの交流を通じて、自らのビジネス構想のグローバル展開の可能性を探ったり、将来の起業への思いを強めた。



渡辺さん



村田さん

日本人に会い、刺激を受けて、いつか日本を代表する企業家になりたい」と笑顔を見せた。

卒業後の起業を見据える大卒生・専門学校生の部で入賞した慶応大4年の渡辺光祐さん(22)は英語で積極的な対話した。「ビジネスの本場で多くの気づきを得た。ユニコーン企業を目指して努力していきたい」と目を輝かせた。

ベンチャー部門で入賞した高崎市のヘルスケアスタートアップ企業「MU」の村田悠典さん(36)は、シリコンバレーの技術革新の速度に驚いたという。「潮流に乗り遅れないため、即断即決する力の重要性を学んだ」と満足そう。一般の部で入賞し、企業のDX化サポートを手がける渋谷市の「デジタルスワッチ」の田中秀彰さん(38)は、事業に生かせる発見があったとして「持つる資源をどう生かすかで結果が大きく変わることを学んだ」と次の目標に照準を合わせた。

GIA米国視察団

(肩書・敬称略)

- ▷GIA2024受賞者 飯塚花笑(スタジオ6.11)村田悠典(MU)田中秀彰(デジタルスワッチ)渡辺光祐(慶応大)江戸美月(武蔵大)
- ▷GIA協賛社 村椿仁(中央情報大学)渡辺祐貴(ソウワ・ディライト)寺尾栄治(JTB)▷田中仁財団 田中仁▷上毛新聞社 高橋徹、羽鳥正人、角田隼也▷視察協力 静岡新聞社、ジェットロ群馬貿易情報センター

